



三重塔



2月校長講話 ～ 全校合唱「群青」によせて ～

卒業式に向け、先の音楽集会でも「群青」の歌声が響きました。ご承知の通り、「群青」は東日本大震災をきっかけにしてできた合唱曲です。私は、歌詞に触れるたびに未だに胸が熱くなります。そして私たちは今、卒業式に「群青」を歌いながら、東日本大震災によって皆が気づかされた「大切なもの」に深く思いを巡らせ、さらに大切にしていこうとしているわけです。

さて今日は、二つのことについて私たちのあり方を考えていきたいと思っています。

東日本大震災から まもなく9年が経とうとしている

1 悲しみを乗り越えた方々のこと

2 命を守るということ

1として、今年成人式を迎えられた只野(ただの)哲也さんのことをご紹介します。彼は、宮城県石巻市の大川小学校で、小学校五年生の時に津波に遭います。只野さんは、この津波に巻き込まれた児童の中でたった4人生き残ったうちの一人です。(津波から逃げた山の斜面で、たまたま木に引っかかって助かり、同じく冷蔵庫にしがみついで助かった友達

と、水際に打ち上げられたお菓子和雪を食べながら生き延びたのです)

さて、こうして助かった只野さんですが、震災直後は、大川小の奇跡の生存児童として取材を受け続けました。そして、本当に悲しいと思えるようになったのは高校生になってからだと言いました。それは、どういうことか…。

「時間が経てば経つほど、震災前のことを思い出してつらくなりました。それまでも思い出さないわけではなかったのですが、極力考えないようにしていたのだと思う」と…。(実は只野さんは、この津波でお母さん、お祖父さんを亡くし、更に一緒に津波から逃げていた小三の妹さんを救えなかったことも、ずっと心の中に引きずっていたのです)

自分の気持ちに蓋をしていた

- 多くのマスコミ、多くのカメラが集まった。
- 友達には「目立ちたがり屋」などの誤解を受けていた。
- よく思わない大人もいた。
- 俺は目立ちたいわけでもないのに…

しかし、彼は「語り部」として活動をすることを決めます。自分の気持ちに蓋をしていたことから抜け出し、自身が経験したつらい記憶を話すことで、「津波の恐ろしさや命の尊さを訴えたい」と思うに至ります。

「大川小はいつも地域の中心だった。学校行事があるたびに地域の人が集まり、地域で盛り上げていた。僕はくここに生まれて本当に幸せだ」と思っていた。しかし、震災によりふるさと、友達、先生方、大好きだった地域の方々がたくさん亡くなった。こんな思いを二度と他の人に味わってほしくないし、「みんな、言えずに苦しかったものを抱えていて、あの日を語ることは今を語ること、生かされた意味をつかむこと」でもあると。

(その他に、宮城県女川町で被災し、「大震災復興絵はがき」を描いた中学生の神田瑞樹(みずき)さんのお話がありました。)

こうして私たちは今、大震災から多くを学ぶことができるのですが、やはり2の、命を守るということ以上に大切なことはないのかもしれません。

三人目に紹介するのは佐藤敏郎さん。中学校の教師を辞め「小さな命を守る会」を作り津波について語り伝える活動に取り組んでいらっやいます。当時、女川中の先生であった佐藤さんは、ご自身も小六のお子さんを亡くされました。海岸から大川小まで3.7km。青木で例えると、上田に向かって浦里小より先の辺りになる。ここに、8.6m、二階天井より高い津波が押し寄せました。ここでは、地震発生から十分逃げる時間があつたのに、なぜ多くの命がなくなつてしまったのか。佐藤さんはこのことを検証し、我々に伝えてくださっています。佐藤敏郎さんの講演会では、防災を含めて私たちが大切にしなければならないのはハーモニーであると締めくくられています。

東日本大震災のあの日と今はつながっている。佐藤さん、只野さんは、いろいろな方々に今を生きる意味を伝えてくれています。

そして、私達も今、「群青」を歌います。

きっと、一人一人に「私はこの部分が好き」という歌詞があるでしょう。

それがもう、震災とあなたがつながっている、ということなのかもしれません。

私たちは、決して東日本大震災を、そして昨年の台風による被害など、様々な災害を通して「語られたこと」を忘れてはなりません。以上で本日のお話を終わりにします。

ハーモニーをつくりだす とはということか
= みんなを伸ばすための音を出す。

- 自分が発すべき音を出す。
- 他を顧みずに強い音を出さない。
- 他の音をよく聞く。
- 自分のパートの音に責任をもつ。 ...

生徒同士、先生と生徒で ハーモニーをつくらうではありませんか

(資料出典:佐藤敏郎さん講演会より)

今年度最後の参観日 1月30日

各学級、各教科の集大成を保護者の皆様に見ていただきました。
本年度1年間の生徒の成長や本校の授業づくり、学級づくりが保護者の皆様に伝わったように感じました。先生方の関わりや支援があって、生徒が成長してきていることを実感しました。授業参観後は、PTA代議員会、各専門委員会、総委員会も行われ、活動のまとめを行いました。一年間、様々なPTA活動にご協力、お力添えいただき、ありがとうございました。



進路セミナー

1・2年生合同で、1月31日(金)に進路セミナーが行われました。今回は、青木村駐在所長 小田達博様、キャステク社長 増田公男様からお話をお聞きました。

1年生はキャリア教育のスタート、2年生は自分の進路・将来について考えるよい機会となりました。

【感想】

警察官になった理由は、警察にあこがれたや、治安を守りたいとかだと思っていたけれど、白バイに乗ってみたいという理由で驚きました。でも、幼い子どもの死亡事故を見て、事故を一つでも減らしたいという理由に変わったと聞いて、自分も将来、掲載はいやだけど、幼い子どもを守る仕事に就きたいと改めて思いました。小田さんが言っていた得意技、目標、人の役に立つことなど、一つでもいいから早く見つけて、小田さんみたいに家族のことだけでなく、他の人のことも思いやれる人になりたいと思います。

身につけておきたいことで、とても自分にとって大切なことを学ぶことができました。私は、少し諦めたりするときがあります。でも、今日のお話で、これからは負けん気になって挑戦していきたいです。他にも、私はどうしても楽な方の道に行ってしまうので、苦しい道と楽な道、どちらを選ぶかというときは、進んで自分から苦しい道を選んでいきたいと思います。そして、社会人になっても思いやりの心を忘れずに過ごしたいです。

増田さんのお話を聴いて、ものすごく努力をされたんだなあと思いました。仕事の内容を見ると、とてもたくさんの仕事をこなしていてとてもすごいと思いました。2~3社の顧客が70社までも増えたことにもびっくりしました。身につけてほしいことで、権限と責任は一体であるということが心に響きました。あと苦勞は買って出るということを意識していきたいと思いました。思いやりの心をもって生きていきたいです。

ご報告 ~3学期の取組から~ ****

部活動運営委員会

2月12日(水)、村教育委員会、小学校長、各部保護者会長の皆様、部活動指導員、外部指導者の方々にご参加いただき、部活動運営委員会が行われました。

この会では、国、県等の指針を受けて、本校の部活動運営、今後の部活動の在り方等について話し合われました。来年度は、今年度の部活体制を継続していくことに努め、引き続き、部活の在り方について検討を重ねてまいります。

活動期間、時間などについては、今年度に準じて計画していきます。



3月の予定

- 4日(水) 修学旅行事前検診(2年) 6日(金) 薬物乱用防止教育授業(1・2年)
- 10日(火)・11日(水) 公立高校後期選抜 13日(金) 生徒会退会式 16日(月) 3学期終業式
- 17日(火) 卒業証書授与式
- 18日(水) 春期休業(~4/5)
- 19日(木) 公立高校後期選抜合格発表
- 21日(土) PTA会計監査・PTA役員慰労会
- 27日(金) 新2・3年登校 新年度準備(午前)



【放射性物質検査結果について】 2月の学校給食用食材の長野県産豚肉、青森県産ごぼうから放射性物質が検出されなかったことをお知らせします。

